

# 流鏑馬の歴史

207

流鏑馬サミット  
参加団体の紹介⑤

ふるどの古殿八幡神社の流鏑馬

(福島県古殿町)



珍しい二人流鏑馬

流鏑馬の勇壮さは鎌倉武士の姿を髣髴とさせるといわれます。関東から離れた東北地方でも流鏑馬は盛んで、東北6県それぞれで様々な流鏑馬が行われています。江戸時代には南部藩の南部流という流派流鏑馬が生まれるなど、独自の発展を遂げた地域もあります。

また、流鏑馬保存団体同士の間でも盛んで、流鏑馬競技会が行われています。今回は東北地方から福島県古殿町の流鏑馬を紹介します。

## 山林王国・古殿町

古殿町は、福島県の南東部に位置し、東はいわき市と接しています。人口約6500人、面積は163平方キロメートル、三株山を最高峰にして鎌倉岳、犬仏山、矢野山など600〜700メートル級の美しい山々に囲まれた林業の盛んな町です。

古殿町の山林総面積は1万2400ヘクタール、そのうち杉などの針葉樹林が8000ヘクタールを占め、町内の小中学校7校全てが学校林を持っており『山林王国』といわれています。

流鏑馬の舞台となる古殿八幡神社は、康平5年(1062)、源頼義・義家父子が奥州征伐の折、この地から、京都石清水八幡宮に向け戦勝を祈願し、平定の記念に、石川氏の祖である福田次郎に命じ、康平7年(1064)、石清水八幡宮を勧請したのが始まりといわれています。後に竹貫郷13か村の総鎮守となりました。

代々の領主は、源頼義勧請の八幡を守護し、古き殿の館を居館として

いたことから、この地を古殿と呼ぶようになり、町名の由来にもなったと伝えられています。

## 流鏑馬の里・古殿の流鏑馬

町の中に入ると流鏑馬の里の表示が目にとまります。古殿八幡神社の流鏑馬は、建久5年(1194)源頼朝から竹貫の領主に社領が与えられたことから、これを記念して流鏑馬と笠懸が行われたのが起源とされています。領内の兵士たちも盛んに励み、江戸時代になっても、流鏑馬、笠懸の折には、領主は代参を欠かさなかつたといわれています。

現在、流鏑馬の本祭りは10月第2日曜日に行われていますが、多くの来場者が詰め掛け、賑わいを見せています。

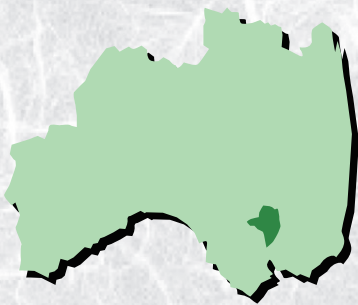
古殿八幡神社の流鏑馬では、射手を役者と呼びます。当番の集落は輪番で決められており、流鏑馬行事は古式に則って行われます。流鏑馬当日の深夜、神社に御籠もりしていた役者たちは、近くの大平川につきり身を清めます。

笠懸では、口取り役が馬を引いて一周、役者自らたずなをさばいて二周、田を廻った後に馬を走らせ、官司屋上の千木めがけて矢を放ちます。流鏑馬は、全長300メートルほどの長い馬場に3つの的が立てら

れ、3騎の役者が次つぎと矢を放ちます。馬場尻から戻るときは弓を頭上に高々と掲げる所作を行います。流鏑馬の里・古殿町では競技会、あるいは講座などを通じて、射手の養成が盛んです。馬の文化を継承していく一つの取組が地域の人びとによって行われています。



騎射のようす



福島県古殿町